

地震の対策できていますか？

日本は、地震が多く発生する国です。世界の地震の約2割が日本の周辺で発生しているといわれています。また、地震が恐ろしいのは、いつ、どこで発生するかわからないということです。だからこそ、地震を正しく理解して、地震に対応できるよう、準備をすることが重要です。

地震を知ろう

(1) 震度とマグニチュードの違い

「震度」とは、地震が起こった際のある地点での地面の揺れの強さを表したものです。
「マグニチュード」とは、地震そのものの大きさ（規模）を表したものです。

(2) 震度による感じ方の違い

<p>0</p>  <p>【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	<p>1</p>  <p>【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>2</p>  <p>【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p>3</p>  <p>【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p>4</p>  <p>【震度4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。 	<p>5弱</p>  <p>【震度5弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<p>5強</p>  <p>【震度5強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物につかまらなさと歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が倒れることがある。 	
<p>6弱</p>  <p>【震度6弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 <p>耐震性が高い 耐震性が低い</p>	<p>6強</p>  <p>【震度6強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● はわないと動くことができないうちはされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 <p>耐震性が高い 耐震性が低い</p>		
<p>7</p>  <p>【震度7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。 <p>耐震性が高い 耐震性が低い</p>	<p>(気象庁震度階級の解説より一部抜粋)</p>		

飯塚市の地震発生確率

飯塚市への影響が大きいとされる活断層としては、「福智山断層帯」、「西山断層帯」、「宇美断層帯」、「警固断層帯」があり、国立研究開発法人 防災科学技術研究所が作成した「確率論的地震動予測地図」によると、飯塚市における30年の間に震度6以上の揺れに見舞われる確率は、2%～11%程度と予測されています。

地震に備えて

(1) 事前の対策

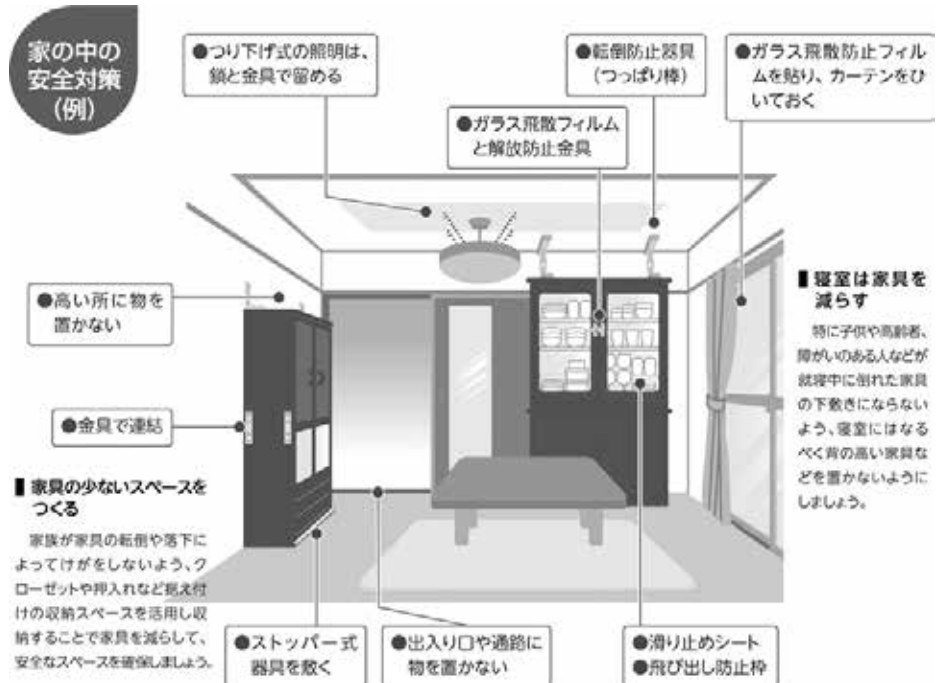
～家の中やその周りの安全チェック～

大きな地震では、家具などが倒れたり、上から物やガラスが落ちてきたりして、多くの方がケガをし、中には命を失ってしまう人もいます。2005年に起きた「福岡県西方沖地震」では、負傷者の36%は、「家具類の転倒、落下」が原因だったというデータがあります。

～家族で防災会議～

いざという時に、それぞれがどうすればいいか、普段から確かめておきましょう。

- 家の耐震性（安全性）は？
- 家の中でどこが一番安全？どこが危険な場所？
- 避難場所（安全な場所）や、そこまで行く安全な道は？
- 家族がバラバラになった時の連絡手段は？待ち合わせ場所は？
- 持出品の準備は？どこに置いてある？
- 高齢者や乳幼児などの介助は？



～備蓄品の準備～

大規模な災害が発生すると、水や電気などのライフラインは停止し、流通機能もマヒします。このような事態を想定し、3日間分以上の食糧や水、生活用品などを備えておきましょう。

(2) 地震発生直後の行動

① とにかく自分の身を守ろう！

「緊急地震速報」を受けた場合や、突然揺れた場合は、テーブルの下に身を隠すなど、少しでも安全な体勢をとり、まずは自分の身を守りましょう。

② 安全の確認、避難口の確保！

揺れがおさまった後に、戸を開けるなどし、避難可能な出口を確保しましょう。また、家族や友人等、一緒にいた人の身の安全を確認し、安全な場所に避難しましょう。その際、あわてて戸外に飛び出さないようにしましょう。

③ しっかり火の始末で、火災防止！

自宅にいる場合は、台所やストーブなどの火の始末をしましょう。避難する時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスも元栓を閉めましょう。

④ 正しい情報に基づいた判断を！

災害が発生したときには、誤った情報が飛び交います。噂に惑わされず、テレビ、ラジオ、市役所等からの情報に注意し、正しい状況の把握に努めましょう。



「緊急地震速報とは？」

地震をすばやくキャッチし、その後に強い揺れがくることを、数秒～数十秒前にお知らせするものです。テレビ、ラジオ、携帯電話等で受信できます。緊急地震速報を受信した際は、必ず、少しでも安全な体勢をとりましょう。